

丹波篠山地区石根山および唐子鉱床調査報告

石根山および唐子鉱床は篠山地区の播磨耐火煉瓦株式会社所有鉱床中の主力をなす鉱床である。本地方の炉材珪石鉱床については、嚮に岩生周一その他の調査報告があり、また筆者も丹波若狭地区の篠行鉱山を調査したことがある。ここに今般調査した石根山および唐子鉱床の最近の鉱況について述べよう。

篠山地区の炉材珪石鉱床の特性を述べることは、探鉱上において重要な故、次に総括して述べよう。

- ① 篠山地区の炉材珪石は、いわゆる秩父古生層の走向とほぼ一致して、東西方向に分布され、かつ鉱床は明らかに2群に分たれ、南鉱床は北鉱床に比し、品位は良好で、主要な鉱床はすべてこれに属する。
- ② 鉱床の上盤は板状珪岩、下盤は輝緑凝灰岩であることが注目すべき特性である。
- ③ 鉱体はレンズ状を呈し、単一鉱体の大きさは数10~数万 t 程度。大きな鉱床は下部に至るに従い、黄鉄鉱が鉱染的に散在する傾向がある。
- ④ 鉱体は断層に切断されることが多く、この断層の性質を究めることが探鉱上肝要な事項である。
- ⑤ 南北両鉱床の分布線上において露頭あるいは転石を追跡調査に努むれば、なお新鉱床発見の余地がある。

a. 石根山 鉱床

大宇村小倉道路南側の海拔標高 355m 山の北側斜面にあり、道路面まで斜距離 180m の軽索が設けられている。

鉱体の上盤は板状珪岩、下盤は輝緑凝灰岩であるが、2~3枚の黒鉛化した黒色頁岩層の薄層を夾有し、特に下盤近くに存在する。

鉱体はレンズ状をなし、走向 N50°W、傾斜は S45° 南北方向の盾入坑道はいずれも着鉱している。

露天掘跡には僅かに露頭が認められ、1坑は 26m、2坑は 61m、3坑は 90m、4坑は 30m で、いずれも着鉱している。2坑の現在の採掘箇所には N50°E、N80° の断層によつて鉱体は切断され、また N70°W、N50° の断層によつて切られており、鉱体は 3坑に向つて鍋状に圧縮される傾向がある。

3坑は単に着鉱したのに止まっているが、この地並ではなお掘進して鉱況を確認の必要がある。

幅員最大 20m、延長 30m、深さ 30m で比重を 2.6 とすれば、鉱量 10,086 匁となり、既採量を 1/2 と見做せば、残

存鉱量は約 7,000 匁となる。

b. 唐子 鉱床

1坑、5坑間は露天掘が行われ、走向 N 50~60° W、傾斜 S70°、1坑は 61m 鍾押され、6坑および5坑は露天掘下部の鉱体に着鉱している。鍾幅は最大 3m で、下部に至るに従い縮小する。鉱量は約 2,000 匁。

3坑は1坑の上位 30m にあり、これは地表部の露頭より昨年発見した鉱体である。延長 20m × 鍾巾 5m が 3坑で把握されており、5坑を N30°W 方向に約 10m 掘進すれば、この鉱体に着鉱する予定である。

鉱量は下位の鉱体とほぼ同一程度のものであろう。

要之、唐子鉱床においては、現在 2 鉱体が判明し、これが稼行されている。

品位は青白または赤白珪石で 1~2 級の良好な鉱石である。

結 論

篠山地区の東端部にあたる大宇地区は、鉱床の規模はいずれも比較的小さいが、石根山、唐子両鉱床は鉱量的にもややまとまり、かつ品質も良好の部に属し、今日の不況時代においてもなお稼行が継続されている鉱床である。

「附 記」

炉材珪石は最近不況にあり、丹波地区においてもその産出が著しく減退している。

播磨耐火煉瓦株式会社所有鉱山の月産量も昨年比し半減以下となり、漸く月産 200 t を維持しているに過ぎない。

鉱床名	本年度	昨年度	現在稼働者数
石根山	100 t	200 t	8名
唐子	50 t	100 t	6名
竹谷	50 t	150 t	4名
新田山			2名
坂部山	休坑		
南谷			
奥山			
宮代			
計	200 t	450 t	計 20名

(外職員 4名、輸送係 4名)

(清島 信之)